

## 2012 年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

関西学院では、学校教育法の改正を契機として初等部・中学部・高等部が互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施する制度を構築しております。

2012 年度は、「キリスト教主義教育の実践」（重点的な課題）「教育課程・学習指導」「生徒指導」「特色ある教育の実践」の4項目を評価項目に設定し、評価の実施にあたっては、各項目について生徒・保護者・教員にアンケートを行い、それぞれの立場からの意見を聞くことによって客観性も確保しました。

今年度も各項目について、まず現状を説明し、アンケートの集計結果も参考にしながら評価・分析を加え、今後の改善に向けた具体的方策を示し、自己点検・評価としました。また、大学、高等部、初等部のお互いの責任者が直接行き来することによって、ありのままの中学部の教育を見ていただきました。そこでのご意見も合わせて中学部の学校評価としてまとめています。

この度、中学部の学校評価が関西学院評価推進委員会において承認されましたのでホームページ上で公表いたします。

関西学院中学部は学校評価を通じて自らその課題を探り、その課題に誠実に向き合って改善することによって質の高い教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

次頁以降に 2012 年度中学部の学校評価を項目別にまとめたものを記しました。

今後とも、各部門において改善に努めていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

2013年3月22日

関西学院中学部  
部長 安田 栄三

## 学校評価シート

### 【教育課程・学習指導】

#### 現状の説明

基礎学力の定着、発展内容の伸長を目的として教育課程の変更を行った。具体としては、土曜選択講座を廃止し、土曜日の必修化、国数英等の基礎科目と読書の統合的発展応用科目の時数の増加を行った。土曜選択講座に代わるものとして、2、3年生には、必修授業で扱えない事項や発展的内容を扱う選択授業を週あたり1コマ（2時間）設定した。

また、生徒の学力を客観的に把握するため、懸案であった学力推移調査を全学年で導入した。

さらに補習も1年生の数学を中心に多く行われている。ただし、これは教科担当教員の自発的実施であり、制度的に、補習等の学力保証のための措置を講ずることが望まれる。

上記3点の成果については、実施から1年が経過しておらず、まだ評価できる段階ではないが、基礎教科では演習的な内容を扱う場面は増えている。生徒にとって、週35時間の必修授業の負担がやや重いようであり、その軽減のため、次年度（2013年度）からは、選択授業を廃止し、週あたり34時間の教育課程実施が決定している。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

従来同様、生徒・保護者ともに学校への満足度は高い。また、教育課程、内容に関する評価も高い。それに比して、学力向上の実感が伴っていない生徒・保護者が少なからずいることも従前通りである（保護者評価は昨年より若干肯定的評価が増加）。外部試験導入初年度であり、自らの学力がどの程度かの客観的データがないため、そのような結果になったと思われる。

補習等への評価は教科教員が積極的に行っていることもあり、昨年度より高い評価を得ている。

高等部を含め進路情報が少ないとの評価は、昨年より若干向上したものの、まだ、半数を超えている。ほぼ全数に近い生徒が高等部へ進学するという本校独自の状況から、学校側、生徒・保護者側双方に積極的に進路情報を提供し、受け取るという要求が少ないことも要因の一つと考えられるが、さらに改善が必要である。

#### 改善の具体的方策

次年度より生徒の負担を軽減しつつ、必修教科の定着をはかるよう、教育課程の改変を行う。また、客観的学力を自覚できるよう、学力推移調査、その他の資料を活用するための生徒・保護者に対するガイダンス等も行っていく。それによって学習への動機付けを強める。さらに、学力保証のための補習も、教科教員の自発に任せるだけでなく、制度的に行うための人的、財政的裏付けを得られるよう努力する。

進学・進路情報等については、生徒・保護者に、より積極的に伝える機

会を設けていく。

### 第三者評価／学校関係者評価

- 基礎学力の定着、発展内容の伸張を目的として教育課程の変更を行ったことは評価できる。また従来同様、生徒、保護者共に学校への満足度、教育課程、内容に関する評価が高いことについても評価できる。外部テストの導入については、自分の能力を客観的に知る良い機会でもあるので、今後の継続が期待される。改善点としては、高等部との連携を深め、進路や高等部の教育内容等に関する生徒や保護者への情報提供を一層充実させることが望まれる。
- 基礎学力の定着、発展内容の伸張、学力推移調査などに積極的に取り組み、一定の成果を上げている。高等部への進学・進路情報の提供という点では課題を抱えているが、さらなる高等部との連携に努めてほしい。
- 教育課程の見直しは、確かな変革につながるものであろう。選択から必修、さらに発展的内容設定は、中学部の方針と方向性がよりよく伝わり、結果高い評価につながったと考えられる。この継続、深化を望むと同時に、進学に関しては情報提供のみにとどまらず、『入学時』からの自己目標設定と高き動機づけが課題となる。
- 従来の学力試験による受験を経て入学してくることから、今年度初めて初等部からの進学生と一般受験の両方から入学してくることとなった。今までの、ある意味均質化した力を持つ生徒とはまた違った多様性、また、男女の適性の差などがあり、加えてカリキュラムの変更、土曜の必修化など大きな変革もあって、大変苦勞の多い年度となったと思う。このような変化の中であるので、あまり従来との比較にこだわらず、新しい教育課程・学習システムをしっかりと構築していくように努めたい。
- 学力向上のため、教育課程の変更を行ったり、学力推移調査の導入を行うなど、着実な取り組みをされていることは評価できる。高等部、初等部との連携について、アンケートにおける評価が低く、課題があるように思われる。教員へのアンケートで、「教員は、教育課程の全体を理解している」について、「あまりそう思わない」が少なからずあるのは、少し気にかかる。

## 学校評価シート

### 【生徒指導】

#### 現状の説明

挨拶、時間厳守、身だしなみなど基本的社会マナーについては、重点的に指導している。美化については、風紀美化委員会を中心に、クラス内当番制によりホームルーム教室とその周辺を日々清掃し、3 学期末には大掃除を実施しているほか、「地域奉仕活動」と称して登下校路の清掃活動を定期的に行っている。また、生徒会活動および HR 活動を中心に自主自律精神の育成を目指している。さらに、生徒の問題行動に対しては、「迅速・適切・誠実」を念頭におき、当該学年団と生徒指導部が密に連携しながら対応している。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

基本的社会マナーについて、教員・生徒・保護者ともに肯定的回答の割合が大変高く、特に生徒・保護者では、一昨年から昨年そして今年とポイントが少しずつ上がっている。しかし、教員のアンケートでは「整理整頓や環境美化に努めさせている」の問いで肯定的回答が今年もやや低く、昨年から 0.5 ポイントしか上がっていない。教室の美化意識の低さは継続して教員全体で取り組みを強化すべき課題である。

生徒の問題行動に対しての対応について生徒・保護者の肯定的回答のポイントが上がっている。毎年少しずつ評価が上がってきたのは、当該学年団と生徒指導部を中心に教員同士および生徒・保護者との緊密なコミュニケーションを図ってきた成果であると考えられる。しかしながら今年から入学してきた女子の保護者だけを見ると、肯定的回答が 66.1%と男子の保護者 87.9%を大きく下回っている。これは共学化一年目であるため女子生徒の問題行動に対し、教員の対応に迷いがあることが原因であると考えられる。

#### 改善の具体的方策

美化意識については、今年度より生徒会に風紀美化委員会を立ち上げ、風紀美化部長を中心に活動を行ってきた。しかしあまり効果が上がっていない。来年度からは、風紀美化委員会から年度初めに各教室の掃除の仕方を具体的に提示する。また、「汚さない」「汚したらきれいする」といった個人の美化意識の向上を図る取り組みを具体化したい。

女子生徒の指導に対しては、現一年担任団と指導部で課題を洗い出し、対応策を検討してゆくこととする。

### 第三者評価／学校関係者評価

○地域奉仕活動の一環として、登下校路の清掃活動を定期的に行うなど、風紀美化に関して積極的に取り組んでいる点は評価できる。一年生に女子生徒が初めて入学し戸惑いもあるであろうが、〈改善の具体的方策〉に

記されているように、女子生徒の指導に関しては本年度の課題を精査し、対応策を検討するとともに、教職員全員で得られた情報を共有し、次年度以降につなげていくことが大切ではないかと考える。

- 挨拶、時間厳守、身だしなみ、教室を中心とした美化など、具体的な目標を掲げ実践を進め、成果を上げている。ただ、美化に関しては、生徒と教員の間で成果に関する認識の差も少しみられる。なお、共学化の学年進行の中で、女子生徒の問題行動への対処の方法やあり方が課題と認識されている。この点は、これからの課題として認識されており、成果が期待されるであろう。
- 苦心のあった男女共学のスタート年、スムーズな発進である。地域に向けての定期的な奉仕活動の意義は大きい。行為に対する評判が届いている。中学部が一般社会に「見える」ことが日々の好印象となり、信頼へとつながっているのだろう。中学部のこうした文化浸透は、向かうべき方向へのヒントであり希望である。校内美化は、意識の変革が難しい年代の課題でもある。統一性のある「校内美化システム」を築き上げることも有効と思える。
- 女子生徒の入学で生徒指導も大きく変革する部分があったと思うが、今まで培ってきた人間教育に自信を持ち、「人を育てる」基本をこれからも継続させていってほしいと思う。新しい校舎での生活も始まり、美化に対する意識の向上は大切にしてもらいたい。女子生徒への生活指導も、教員が慣れてくるにしたがって、落ち着いてくるものと思う。
- 生徒指導に関するアンケートでは、男女差はあまりなく、おおむね順調のように思う。ただ、問題行動への対応の問いについて、保護者の間で差が見られる。気にかかる場所であり、留意が必要と思われる。文化祭などで訪問し、男女共学化について、順調に進んでいるように見受けたが、共学化の学年が進むにつれ、女子生徒の数も増えてくるので、生徒指導について、十分な考慮を払っていくことが必要だろう。

## 学校評価シート

### 【特色ある教育の実践】

#### 現状の説明

本校は今年度から共学化した、「キリスト教主義・読書・英語・体育・芸術」の五つを教育の五本柱としながら、日々の礼拝や授業、課外活動などを通じて、特色のある教育の実践を目指すという方向性に変更があったわけではない。よって、今年度も特に学校の建学の精神である「キリスト教主義による人間教育」においては、学校生活において、単に礼拝を守り、授業を通して「聖書」を学ぶということだけでなく、学校生活の多くの場面で「祈り」、また奉仕の心を大切にする、ということを重視しながら教育を展開してきた。

また、本校の誇る「読書」では、本を読むことにとどまらず、学習・研究の方法や技術を学ばせ、設備の整った図書館を背景に生徒の読書生活を幅広く伸ばさせている。

英語・体育・芸術では授業を重視することはもちろんのこと、今年度も、スピーチコンテスト、体育大会、球技大会、マラソン大会、文化祭、合唱コンクールなど、多くの発表の機会を設けた。

また本校はキャンプを通じての「人間教育」にも力を入れているが、新しく入学してきた女子にも、これまで本校が培ってきたキャンププログラムを男子と同じように体験させた。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

どの項目も概ね高い評価を得た。特に読書教育は今年度も教員・保護者・生徒三者ともから高い評価を受けている。設備の整った図書館と「読書」授業を通じて、読書することの意義や楽しさ、図書館を活用することの大切さが生徒に伝わっていている。

英語教育関係の項目は今年度もやや評価が低かった。以前からの課題であった国際理解や交流に関して、今年度も大きな改革がなされなかったためであろうが、改革まではいかなかったものの、現在、海外英語研修復活のための調査を始めている。

また、キャンプや体験学習に対する評価が保護者、生徒共にやや下がっている。これはまだ入学時のオリエンテーションキャンプの一度しかキャンプを経験していない1年生女子生徒、保護者の評価を反映しているものである。この項目に関してはこれから学年を経るごとに参加するキャンプや体験学習の数が増えてくるので、総合的な評価は今後出したい。

#### 改善の具体的方策

読書教育については、読書科と他教科がより緊密に連携をとり、他教科も今以上に図書館を活用することで、「図書館を活用した総合的な学習やプログラムの展開」という面の満足度を上げていく。

英語の海外研修については更に調査を進め、よりよい方法での実施の可

能性を探っていく。

キャンプに関しては、来年度は初めて中学2年生の女子が青島という無人島でのキャンプに参加するので、このキャンプ実施後の評価について、正しく分析を行う。

### 第三者評価／学校関係者評価

- 礼拝、読書、スピーチコンテスト、青島キャンプ等、中学部は従来から特色のある教育実践に取り組んでおり、この点は大いに評価されるべきである。また、国際化の時代を迎え、女子生徒の入学ということもあって、今後は生徒や保護者から海外英語研修に関する機会の提供がさらに望まれるのではないかと予想される。教師の多忙化の現状はよく理解されるが、具体化に向けての現実的で計画的な検討が望まれる。
- 「キリスト教主義・読書・英語・体育・芸術」の五つを教育の五本柱として、重点を置き、各種の活動に取り組み成果を上げている。共学化の進行のなか、読書教育、英語の海外研修、キャンプなどの中学部の特色ある活動をますます充実していくことが期待されている。
- 五本柱は力強い。六十数年の積み上げの中、吟味し練られてきた結果であろう。それぞれが、さらにどう影響し得るか。枠を越えての一体感が特色をより深いものとする。時代の求めに応じての積極的方策が、よりよき改善につながると考える。
- 新しい図書館ができ、より一層の読書教育の充実がなされた事は、大変喜ばしいことである。英語については、海外研修等の計画もとても大切なことだが、高等部に進学するにあたり、基礎的な英語力、特に単語力や文法力もしっかりとつける学習習慣を確立し、将来のグローバル人材育成プロジェクトを担っていく人材の卵を育ててもらいたい。試験前の一夜漬け的勉強ではなく、教科専門性となった中学からの普段の勉強スタイルを、女子が入学したことを好材料として作ってほしい。
- 特色ある教育の実践では、高い評価を得ているものが多く、評価できる。それらの中では、英語教育が、従来から課題のように思う。中期的な視点をもって、全体の向上が図れるような取り組みをされていくことが期待される。英語だけでなく、国際的な視点とか理解力は、今後さらに求められていくと思う。



## 学校評価シート(重点的な課題)

### 【キリスト教主義教育の実践】

#### 重点的に改善に取り組む課題

キリスト教主義教育の実践

#### 具体的な取り組み内容

キリスト教主義教育は全学的な教育プログラムとして展開しているため、共学化に伴って、教職員、生徒、保護者がその取り組みをどのように継承し、発展的に展開できるのか、不安と期待の中で2012年度が始まった。今年度から新たに取り入れたプログラムと共に、これまでの取り組みがどのように実践されているのか、その現状を中心に検証する。主に、生徒と教職員が出席する「礼拝」と保護者が出席する「PTA聖書を学ぶ会」について、具体的な数値を基に評価と分析を行う。

#### 取り組み内容に関する評価・分析

生徒が主体的に企画、運営する「生徒礼拝」はこれまでと同様、一か月に二回開催した。生徒会役員が輪番で奨励を担当し、内容は充実したものであった。今年度はそれに加え、毎週土曜日の10分間の礼拝は生徒の宗教委員による司会、聖書朗読、祈りというプログラムの形を取り入れた。新たな全校での礼拝形式であるが、一・二年生がその役割を担うことも滞りなく進められ、特に初等部出身の生徒は礼拝の習慣が身に付いていることを実感した。また、この土曜礼拝における新たな形として英語部の生徒による「英語礼拝」が毎月一、二回開催された。英語による「主の祈り」の導入もこれまでになかったことである。

宗教総部 J. H. C. (ジュニア・ホーリー・クラブ) 主催による「早天礼拝」は生徒のみの運営によって毎週水曜の朝に行われているが、昨年度までとは大きく変化し、2012年度の出席者数は徐々には減少はしているが、出席者の多数は一年生であり、いつもより早い時刻に登校してでも早天礼拝に出席したいという自主的な礼拝の習慣が身に付いていることがわかった。

毎日の全校礼拝での静寂さ、讃美歌の歌声の大きさなど、中学部が大切にしている伝統が変わりなく継承された一年であった。また、昨年度までのハウス礼拝に代わる週に一度の「クラス礼拝」や、新たに加わった学期に二度の「学年礼拝」も初年度の取り組みではあったが、安定して運営されている。ただ現状に甘んじることなく、特にキリスト教主義教育の根幹である「礼拝」に対して、これからも形式と共に中身を充実させていかねばならない。

「PTA聖書を学ぶ会」の通常例会の出席者数の平均は2011年度は43名だったのに対して、2012年度は61名となり約1.5倍に増えているのは注目すべき点であった。クリスマス等の特別集会は2011年度は平均106名だったのに対して、2012年度は113名と微増しているが、これは生徒定員



数増加に比例した数字であった。保護者がイベント的な形のみならず、キリスト教主義教育を直接的に学ぶ機会を得ようとしている姿勢の表れだと言える。PTAでの聖書を学ぶ集会として、毎月60名を超える保護者が学校を会場に集まる会は全国的に見ても他に類をみないと評価を受けている。1965年に保護者の要望によって生み出された「PTA聖書を学ぶ会」は約半世紀の歴史を経て今年度末に400回を数えるに至っている。

なお、アンケートの項目として「質問13. 日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる」のプラス評価の回答の生徒の比率は、一年生85.9%（男子87.3%、女子83.9%）、二年生80.3%、三年生70.8%と評価は高いが、高学年になるにつれて数値が減少している理由をより分析せねばならない。「質問15. 礼拝で学内外の様々な人の話を聴くことができる」のプラス評価の回答の生徒の比率は、一年生91.9%（男子90.8%、女子93.6%）、二年生93.8%、三年生89.9%と全学年で評価が高く、生徒たちは礼拝の中で聴く話について関心を強く抱いていることがうかがわれる。保護者対象のアンケートの「15. 学校は、キリスト教主義教育を適切に行っている」は、プラス評価が96.6%とすべてのアンケートの中でも最も高い数値になったことは、保護者によるキリスト教主義教育への理解の表れと受け止めていいだろう。一方、教員によるアンケートの「質問24. 教員は、キリスト教主義による人間理解を基に日々の教育活動を適切に行っている」のプラス評価が72.4%、「質問25. 学校は、教員がキリスト教主義教育への理解を深めることができる環境を整備している」のプラス評価が65.5%という数値は、キリスト教主義教育活動への受け止めが生徒や保護者の認識と少し差が生じており、その理由の分析を含め、今後の検討課題である。

### 第三者評価／学校関係者評価

- アンケート結果からも、生徒、保護者共にキリスト教主義教育への理解が深められていることがよく分かり、評価できる。生徒に関しては、生徒を主体とした多様な礼拝が工夫・設定されており、内容も充実したものとなっている。保護者に関しても、伝統ある「PTA 聖書を学ぶ会」によってキリスト教主義教育に直接触れ、学ぶことのできる機会が設けられており、今後の継続と、更なる発展が期待される。
- さまざまなキリスト教主義教育に関わる教育プログラムが展開されている。生徒と教職員が出席する「礼拝」や保護者が出席する「PTA聖書を学ぶ会」に加えて、特色ある活動が展開されており、各活動の成果の高さを評価できる。なお、活動に求める質には、生徒、保護者、教員に若干の差はあるが、高く評価できるであろう。
- 内部からの進学者、外部からの進学生徒はもちろんのこと、保護者においても、キリスト教主義教育のとらえ方の差異は大きい。その中で、新プログラム導入は前進である。生徒主体の内容は、生徒間の繋がりを強め、中学部のめざす自学自習の精神と自主独立につながる。こうした歩みはさらなる発信により、地道ながら保護者にも伝わる。
- 今年度初めて初等部からの入学生を受け入れ、入学式のときから讃美歌

を大きく歌っていたことに、変化の大きさと喜びが感じられた。その分、一般受験から入ってきた生徒をどう導いていくかは、従来の方法とは違う取り組みがこれからも必要になってくるだろう。水曜日の早天礼拝の出席者が大幅に増加したことなど、初等部からの生徒がうまくリードしていることを大切にして、そのことを高等部でも継続して活かしてほしいと念願する。保護者の聖書を学ぶ会への関心の高さも、普段の教育の賜物で、ミッションスクールとしての伝道の使命が果たされていることは、とても大切なことである。

- キリスト教主義教育の実践については、共学化を迎えて、いくらか緊張感を持って取り組まれている。順調に進められているように思われ、評価できる。生徒、保護者からも評価されている。

2012年度 学校評価 実施項目一覧（中学部）

大項目	小項目	目標	アンケート		
			教職員用	保護者用	生徒用
中学部全般				1. 生徒は楽しんで学校に行っている。 2. 中学部の教育に満足している。	1. 学校に行くのが楽しい。 2. 中学部の教育に満足している。
ガイドライン 教育課程・学習指導	(1) 教育課程についての教員間の共通理解と連携	教員による教育課程の全体像の理解	1. 教員は、教育課程の全体を理解している。	3. 学校が提供しているカリキュラムは適切である。	
		教育課程に関する教員間の連携	2. 教員は、教務部を中心として教育課程の編成や実施について連携を図っている。		
	(2) 児童生徒の学力・体力の的確な把握	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握	3. 教員は、外部テスト導入などにより、客観的な学力把握に努めている。		
		教員による学力評価についての理解向上	4. 教員は、生徒の学力・体力評価についての理解向上に努めている。	4. 学校は、生徒の学力を適正に評価している。	3. 学校は、自分の学力を正しくつかんでくれている。
		教員による体力評価についての理解向上		5. 学校は、生徒の体力(運動能力)を適正に評価している。	4. 学校は、自分の体力(運動能力)をつかんでくれている。
	(3) 各教科の特性に応じた授業の工夫	教員自身による担当教科の特性の理解	5. 教員は、自らが担当する教科の特性を理解している。		
		より質の高い授業を目指しての教員による不断の研究	6. 教員は、質の高い授業を目指して、授業研究を不断に行っている。	6. 学校は、生徒の学力を適正に伸ばしている。	5. 自分の学力は伸びている。
		授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫	7. 教員は、授業研究の成果を活かし、授業の創意工夫を行っている。	7. 学校は、生徒の体力を適正に伸ばしている。	6. 授業は、さまざまな工夫が加えられていて分かりやすい。
	(4) 個々のニーズや興味関心に応じた授業展開	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開	8. 教員は、知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている。		
		補習など特別な学習機会の提供	9. 学校は、必要に応じて補習など特別な学習機会を提供している。	8. 学校は、補習など特別な学習機会を適切に提供している。	7. 勉強でつまずいた時、補習などの機会がある。

2012年度 学校評価 実施項目一覧 (中学部)

大項目	小項目	目標	アンケート		
			教職員用	保護者用	生徒用
ガイドライン 教育課程・学習指導	(5) 接続学部との連携	初等部と中学部との連携	10. 中学部は、初等部と適切に連携をはかっている。		
		中学部と高等部との連携	11. 中学部は、高等部と適切に連携をはかっている。	9. 学校は、関西学院高等部に関する情報を適切に提供している。	
		高等部と大学との連携			
	(6) 課外活動の充実	生徒会などの自治活動の充実	12. 学校は、生徒会などの自治活動が生徒によって盛んに行われるように配慮している。	10. 学校は、学級活動やクラブ活動を通じて生徒の自主自律の精神を育成している。	8. 自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。
		クラブ活動など課外活動の充実	13. 中学部は、クラブ活動など課外活動が充実している。	11. 学校は、充実した課外活動（クラブ活動など）を提供している。	9. 課外活動（クラブ活動など）が充実している。
		課外活動が正課（学習）を妨げないことの徹底	14. 学校は、生徒が学業と課外活動を両立できるように配慮している。	12. 学校は、生徒が学業とクラブ活動を両立できるような環境の整備に努めている。	10. 学業とクラブ活動が両立できる環境にある。
ガイドライン 生徒指導	(1) 基本的生活習慣の確立	挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーの指導	15. 学校は、挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーを生徒に身につけさせている。	13. 学校は、生徒に基本的社会マナー（挨拶、時間厳守、整理整頓、環境美化など）を身につけさせている。	11. 学校は、あいさつ、時間厳守、整理整頓、環境美化などの基本的社会マナーを身につけさせている。
		整理整頓や環境美化の指導	16. 学校は、生徒に整理整頓や環境美化に努めさせている。		
	(2) 自主自律の精神の育成	HR（学級活動）における自主自律の精神の育成	17. クラス担任は、学級活動において生徒の自主自律の精神の育成に努めている。	10. 学校は、学級活動やクラブ活動を通じて生徒の自主自律の精神を育成している。	8. 自分たちの手でホームルーム、生徒会、自治活動を行っている。
		学校行事における班活動などを通して自主自律の精神の育成	18. 教員は、学校行事における班活動などを通して生徒の自主自律の精神の育成に努めている。		
		生徒会活動における自主自律の精神の育成			
	(3) 問題行動への対応	児童生徒の問題への対応についての教員間での共通理解	19. 生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある。	14. 学校は、生徒の問題行動などについて適切に対応している。	12. 学校は、自分たちの行動に問題があれば、適切に対応している。
		児童生徒の問題行動の早期発見	20. 教員は、生徒の問題行動を早期に発見しようと努めている。		
		問題行動に対しての適切な指導・訓戒	21. 教員は、生徒の問題行動に対して適切な指導・訓戒・事後ケアを行っている。		
		教員間・保護者との間での問題行動に関する情報交換・連携	22. 教員は、生徒の問題行動などに関して保護者との情報交換・連携を適切に行っている。		

2012年度 学校評価 実施項目一覧 (中学部)

大項目	小項目	目標	アンケート			
			教職員用	保護者用	生徒用	
独自	(1) キリスト教主義教育の理念の共有	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有	23. 教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している。		13. 日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。	
		キリスト教主義的人間理解を基にした日々の教育活動	24. 教員は、キリスト教主義による人間理解を基に日々の教育活動を適切に行っている。			
		教員がキリスト教主義教育への理解を深めることができる環境の整備	25. 学校は、教員がキリスト教主義教育への理解を深めることができる環境を整備している。			
	(2) キリスト教主義教育の推進	学校の重要な柱としての礼拝の遵守	26. 学校は、礼拝を重要な柱として守っている。	15. 学校は、キリスト教主義教育を適切に行っている。	13. 日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。	
		生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施	27. 学校は、生徒のキリスト教主義による人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している。			14. キリスト教に関する理解が深まっている。
		生徒に対する教会出席の奨励	28. 学校は、生徒に教会出席を奨励している。			
	(3) キリスト教関係諸団体との連携	教会などキリスト教関係諸団体からの礼拝奨励者の招聘	29. 学校は、教会などキリスト教関係諸団体から礼拝の奨励者を招いている。	16. 学校は、献金や募金を通してキリスト教主義教育に基づいた奉仕を実践している。	15. 礼拝で学内外の様々な人の話を聴くことができる。	
		教会などのキリスト教関係諸団体を通じての礼拝席上献金の実施	30. 学校は、災害救援や社会福祉施設などへの献金を献げている。		16. 礼拝で集められた献金は世の中の困っている人々に広く用いられている。	
		キリスト教諸団体との種々の連携	31. 学校は、キリスト教諸団体と種々の連携を図っている。			

2012年度 学校評価 実施項目一覧 (中学部)

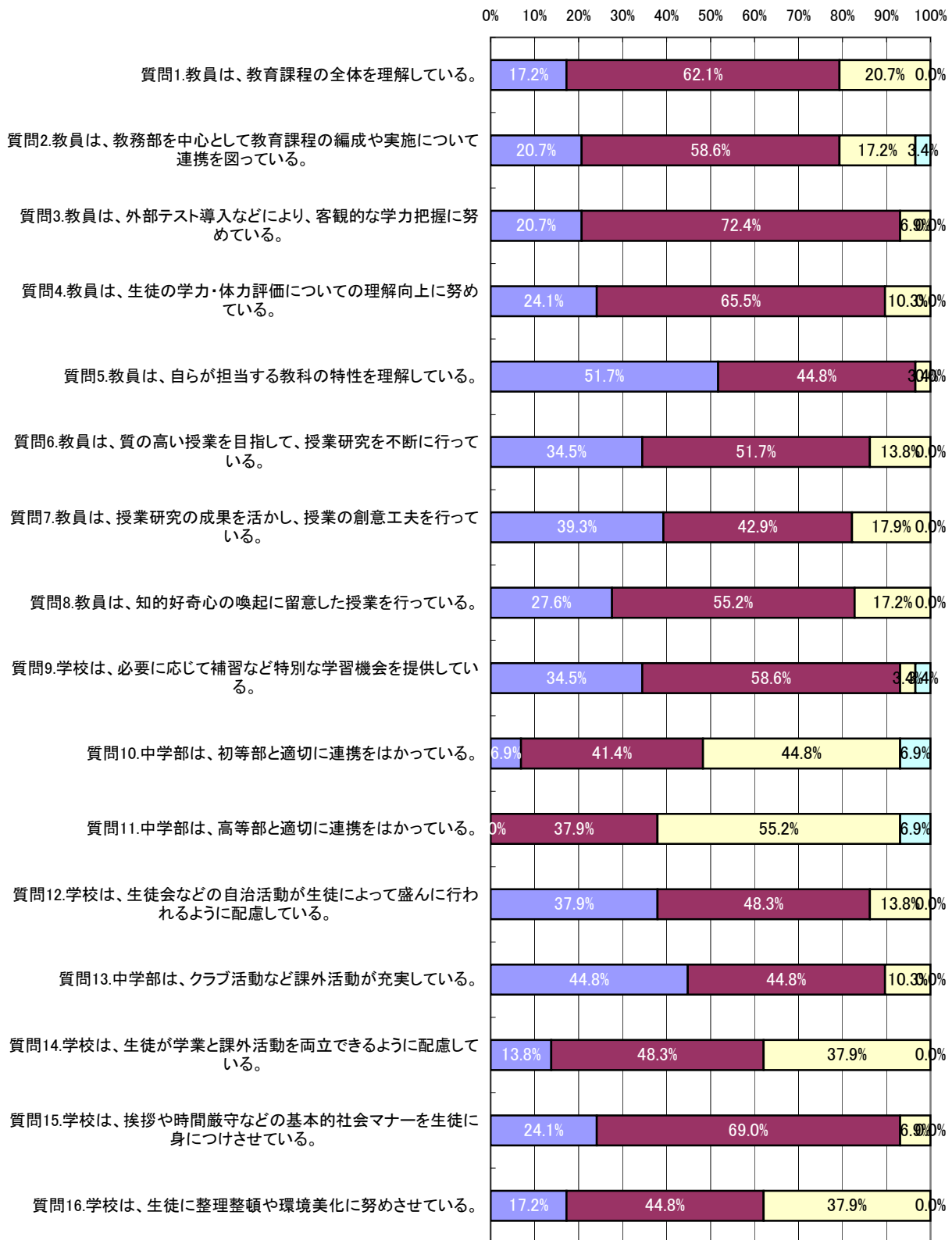
大項目	小項目	目標	アンケート		
			教職員用	保護者用	生徒用
独自 特色ある教育の 実践	(1) 読書・図書館教育	読書生活の推進と実態把握	32. 学校は、読書生活の推進と実態把握を適切に行っている。	17. 学校は、生徒の読書生活を推進している。	17. 学校生活を通じて読書に親しみ、図書館をよく利用している。  18. 読書に関するプログラムが充実している。
		図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動の展開	33. 学校は、図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動を展開している。	18. 学校は、図書館を活用した総合的な学習やプログラムを展開している。	
		読書・図書館教育に特化したプログラムの実施	34. 学校は、読書・図書館教育に特化したプログラムを実施している。		
	(2) 英語・国際理解教育	英語教育を通しての、世界への視野の拡大	35. 学校は、英語教育を通して、生徒の関心が世界へ広がるように努めている。	19. 学校は、生徒が英語に触れる機会を増やし、英語が好きになる学習活動を展開している。	19. 将来、英語を使って世界の人々と交流してみたいと思う。
		英語教育を通しての、ことばへの意識の向上と言語運用能力の育成	36. 学校は、英語教育を通して、生徒のことばへの意識を向上させ言語運用能力を適切に育成している。	20. 学校は、英語の文法学習に併せ、読む・書く・聞く・話す、の4技能を高める学習活動を展開している。	20. 英単語や英文法が身につく、英語を読む・書く・聞く・話す、の様々な活動ができている。
		国際理解の感性育成のためのプログラムの実施	37. 学校は、国際理解の感性を育成するためのプログラムを適切に実施している。	21. 学校は、海外との相互交流や外国人教員を通して、生徒の国際理解の育成に努めている。	21. 海外との相互交流や外国人教員を通して、国際理解の心が育っている。
	(3) 芸術教育	音楽・美術を中心とした芸術教育による生徒の豊かな感性の育成	38. 学校は、音楽・美術を中心とした芸術教育により生徒の豊かな感性を育成している。	22. 学校は、音楽・美術を中心とした芸術教育により、生徒の感性と表現力を育成している。	22. 音楽・美術などの芸術活動を通して、表現する楽しさを味わい、豊かな心が育っている。
		音楽・美術を中心とした芸術教育による生徒の自己表現能力の育成	39. 学校は、音楽・美術を中心とした芸術教育により生徒の自己表現能力を育成している。		
		芸術活動に特化した学校行事の実施	40. 学校は、芸術活動に特化した学校行事を適切に実施している。		
	(4) 体育教育	充実した体育教育による生徒の心身の健全な発達	41. 学校は、充実した体育教育により生徒の心身の健全な発達を図っている。	24. 学校は、体育教育などにより生徒の心身の健全な発達を促している。	24. 体育の授業などにより心身が鍛えられている。
		体育に特化した学校行事の実施	42. 学校は、体育に特化した学校行事を実施している。	25. 学校では体育に特化した学校行事(体育大会・マラソン大会など)が充実している。	25. 体育大会やマラソン大会など、体育行事が充実している。

2012年度 学校評価 実施項目一覧（中学部）

大項目	小項目	目標	アンケート			
			教職員用	保護者用	生徒用	
独自 特色ある教育の 実践	(5) キャンプ・体験的学習	キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施	43. 学校は、キャンプ・体験的学習を、教員全員・学校全体で実施している。	26. 学校は、キャンプや体験的学習を丁寧に準備・実施している。	26. キャンプや体験的学習が学校全体で丁寧に準備され実施されている。	
		キャンプ・体験的学習の、定期的な反省・評価による不断の質的向上	44. 学校は、キャンプ・体験的学習を、定期的に反省・評価して不断の質的向上を図っている。			
		キャンプ・体験的学習の教育的収穫の、事後的学校生活での継続的活用	45. 学校は、キャンプ・体験的学習の教育的収穫を、生徒の事後的学校生活で継続的に活用できるようにしている。	27. キャンプや体験的学習の教育的成果が、その後の生徒の学校生活で活かされている。	27. キャンプや体験的学習で学んだことを、学校生活で活かしている。	
	(6) 人権・平和教育	礼拝や講演会を通じた人権や平和に関する感性と知性の涵養	46. 学校は、礼拝や講演会により生徒の人権や平和に関する感性と知性を養っている。	28. 学校は、人権や平和に関する生徒の感性と知性を育成している。		28. 学校生活を通じて人権や平和について学ぶことが多い。
		HR・授業・行事などを通じた人権や平和を尊重する態度の育成	47. 学校は、HR・授業・行事などを通して生徒の人権や平和を尊重する態度を育てている。			
		人権・平和関係諸団体との連携	48. 学校は、人権・平和関係諸団体との連携を適切に図っている。			



2012年度 学校評価アンケート集計結果  
(中学部・教員 質問1～16)



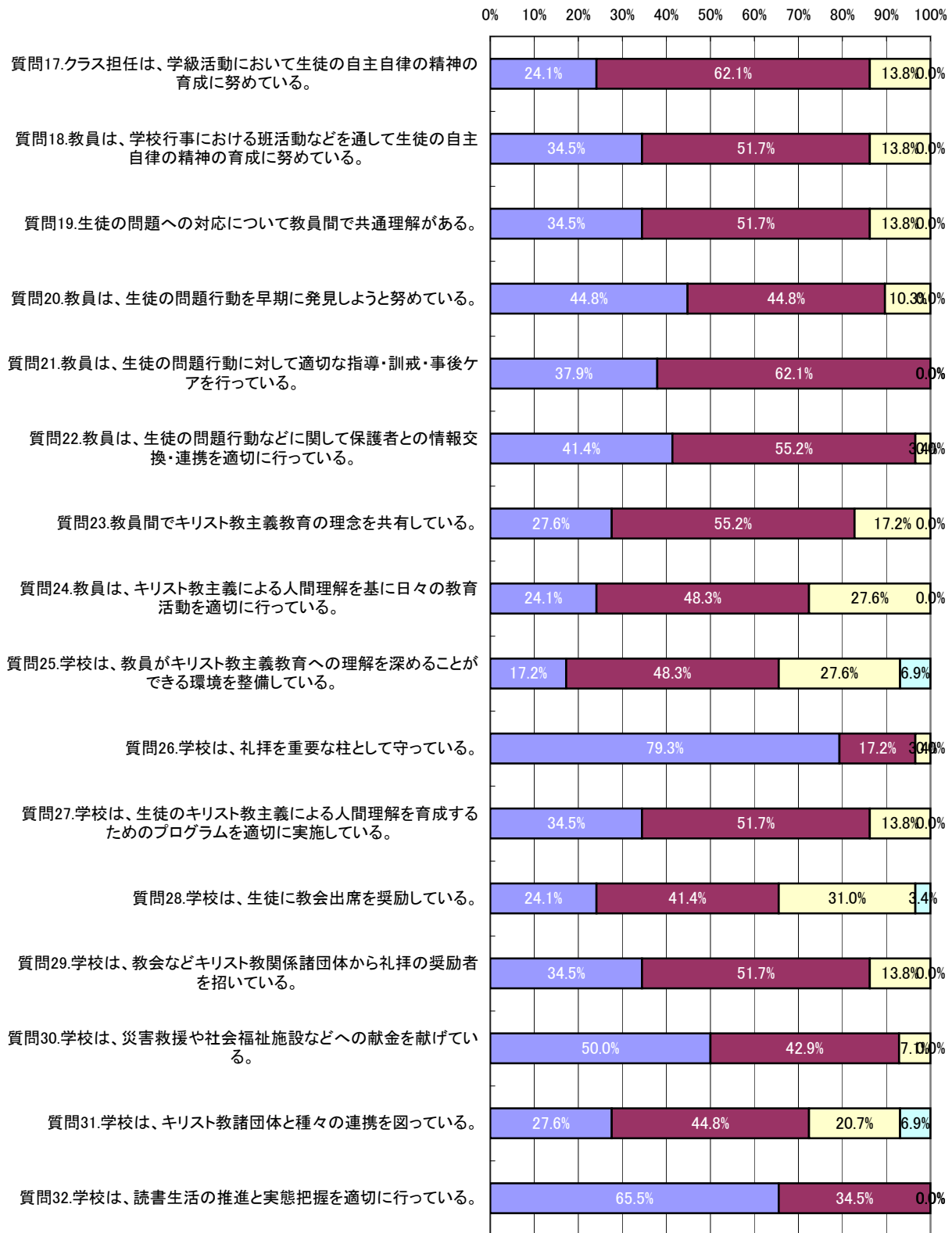
■ 回答番号1: 強く思う

■ 回答番号2: どちらかといえば思う

□ 回答番号3: あまりそう思わない

□ 回答番号4: まったくそう思わない

2012年度 学校評価アンケート集計結果  
(中学部・教員 質問17～32)



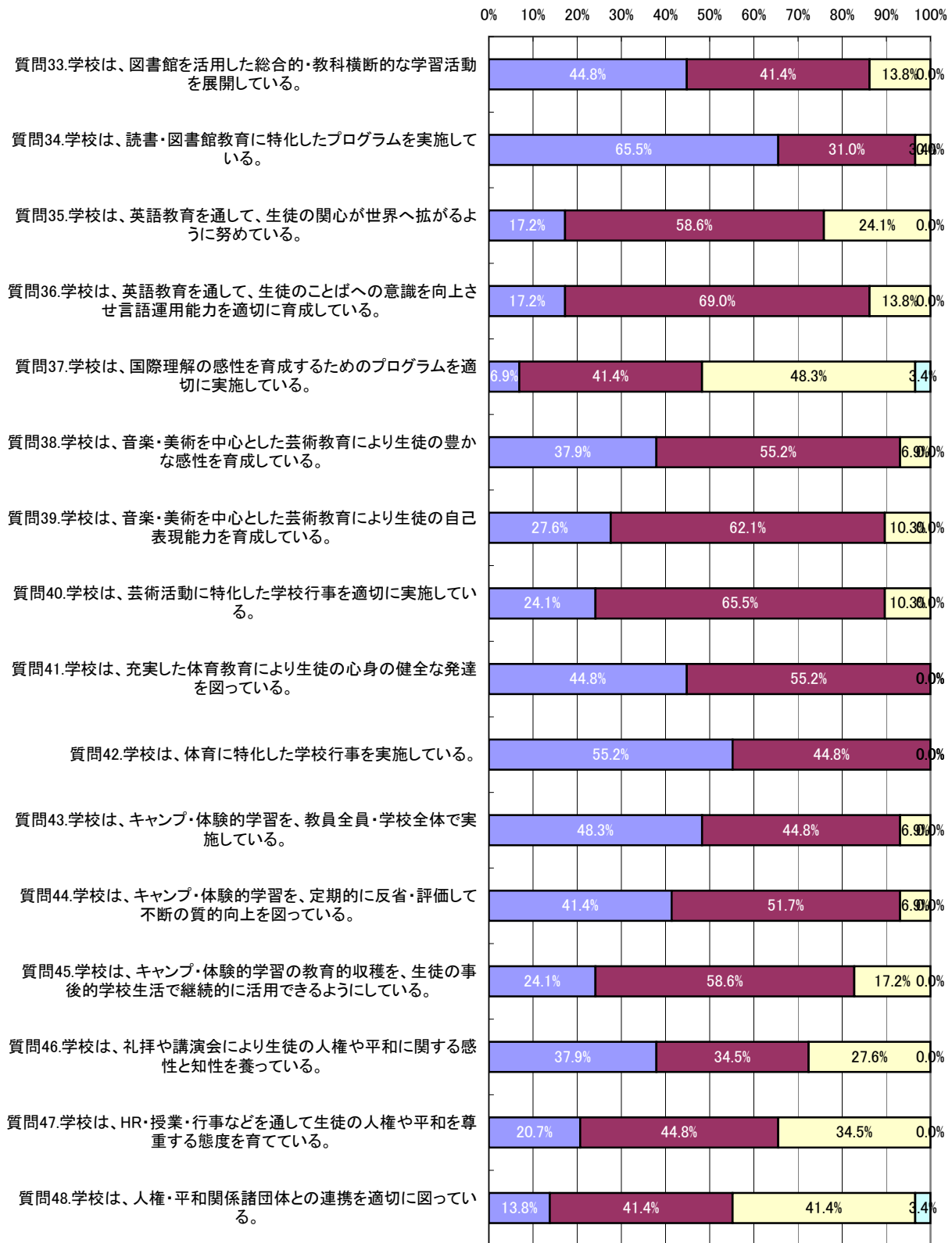
■ 回答番号1: 強く思う

■ 回答番号2: どちらかといえば思う

□ 回答番号3: あまりそう思わない

□ 回答番号4: まったくそう思わない

2012年度 学校評価アンケートと集計結果  
(中学部・教員 質問33～48)



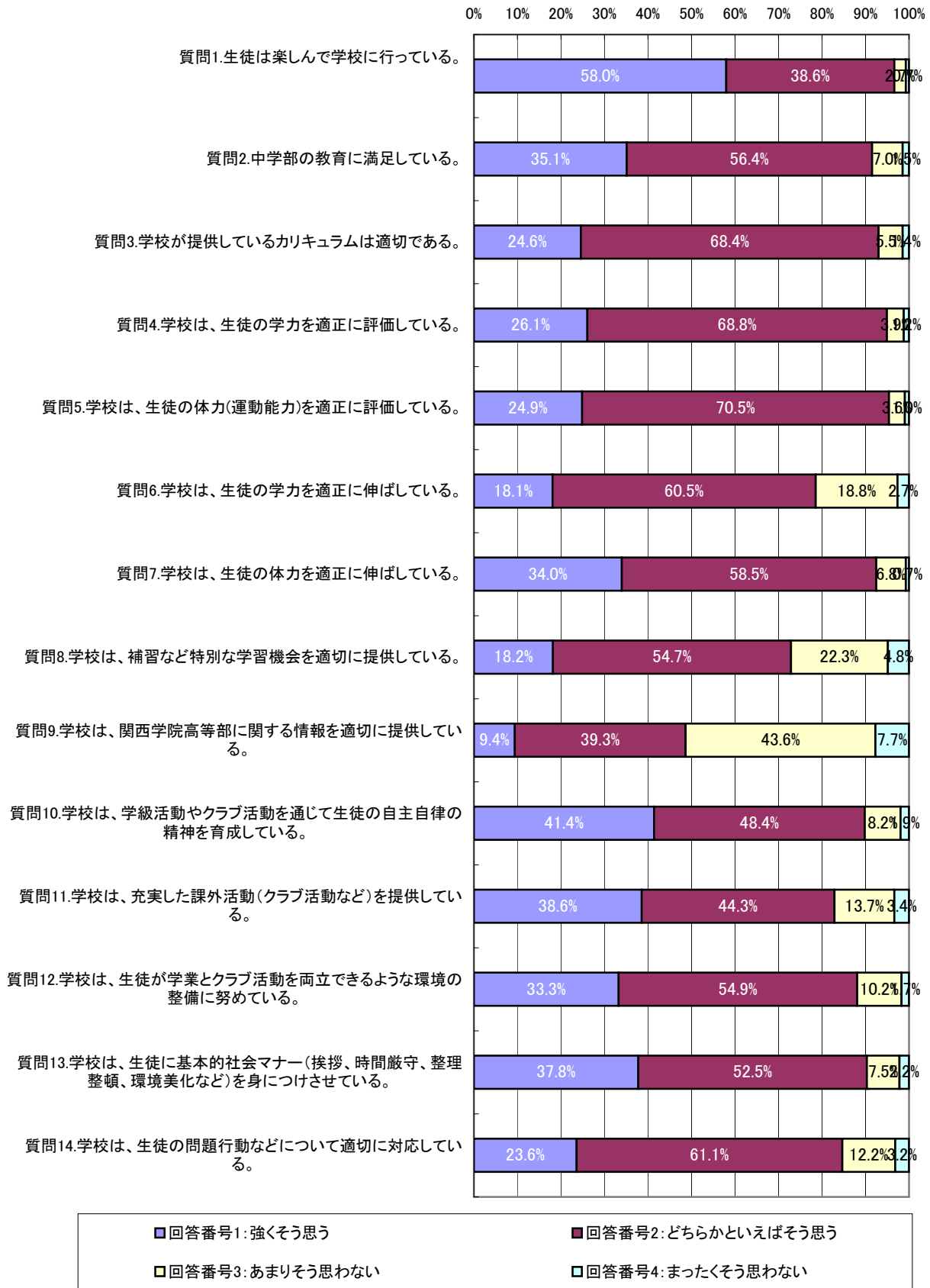
■ 回答番号1: 強く思う

■ 回答番号2: どちらかといえば思う

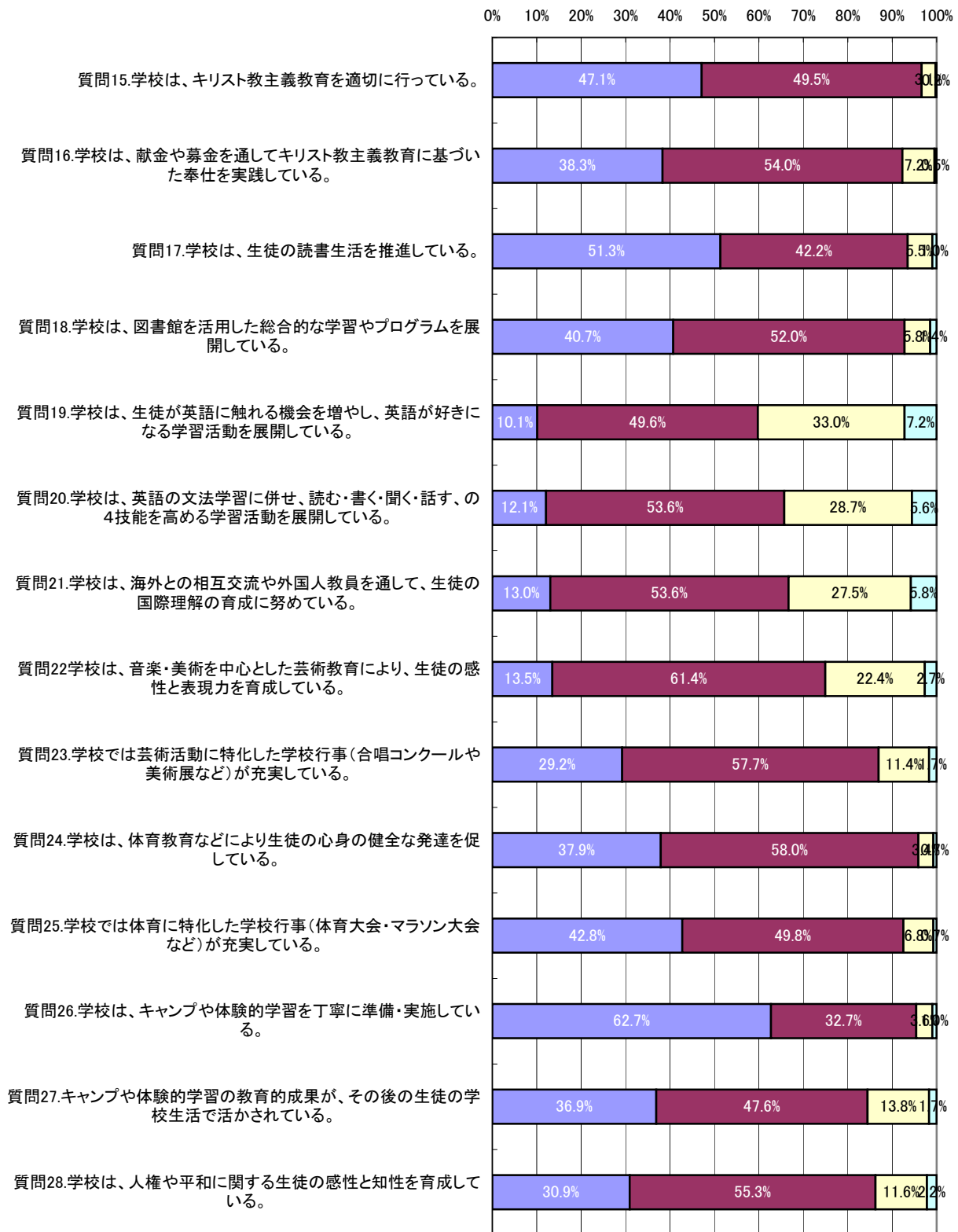
□ 回答番号3: あまりそう思わない

□ 回答番号4: まったくそう思わない

2012年度 学校評価アンケート集計結果  
(中学部・保護者 質問1～14)



2012年度 学校評価アンケート集計結果  
(中学部・保護者 質問15～28)



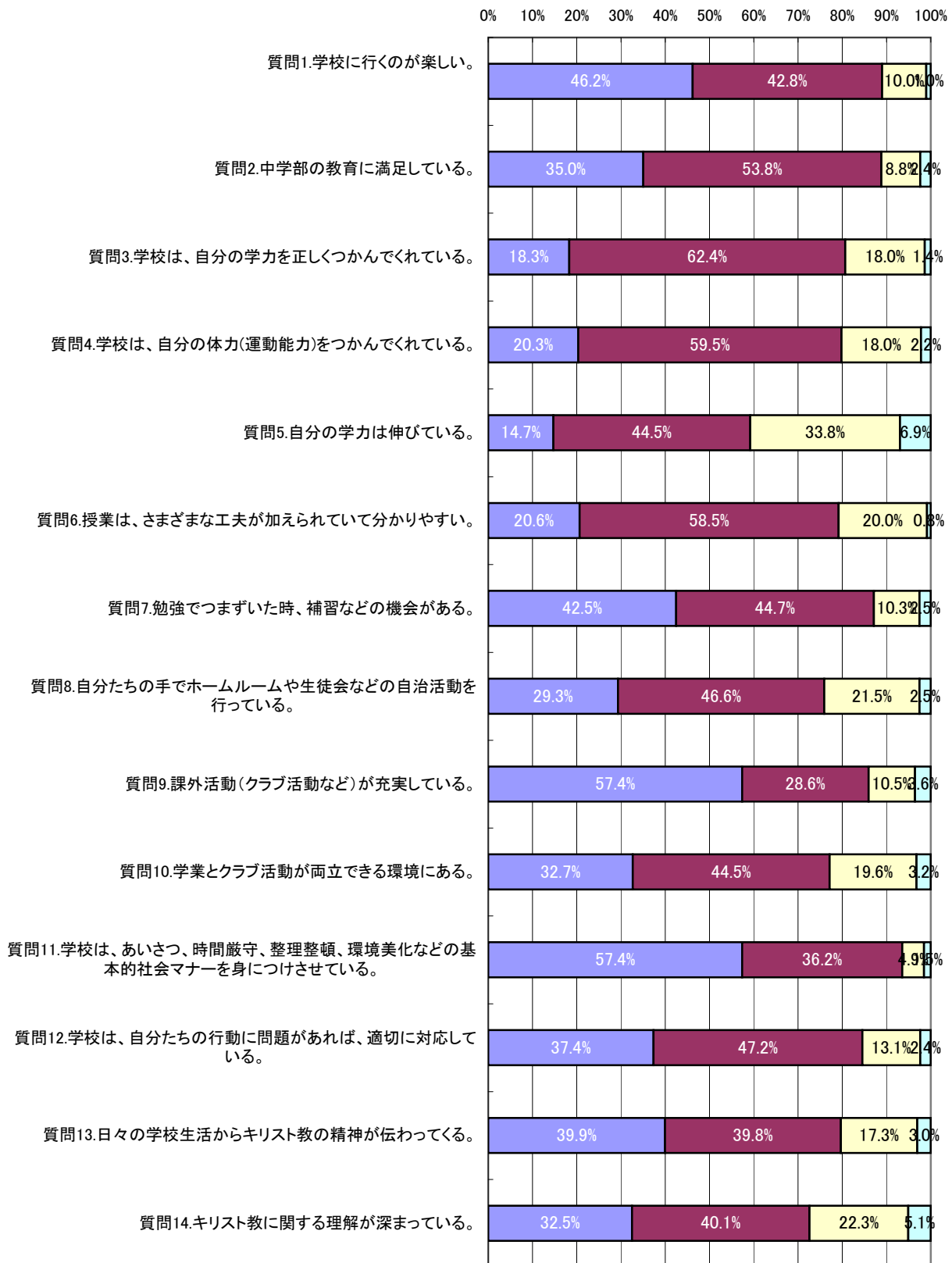
■ 回答番号1: 強く思う

■ 回答番号2: どちらかといえば思う

□ 回答番号3: あまりそう思わない

□ 回答番号4: まったくそう思わない

2012年度 学校評価アンケート集計結果  
(中学部・生徒 質問1～14)



■ 回答番号1: 強く思う

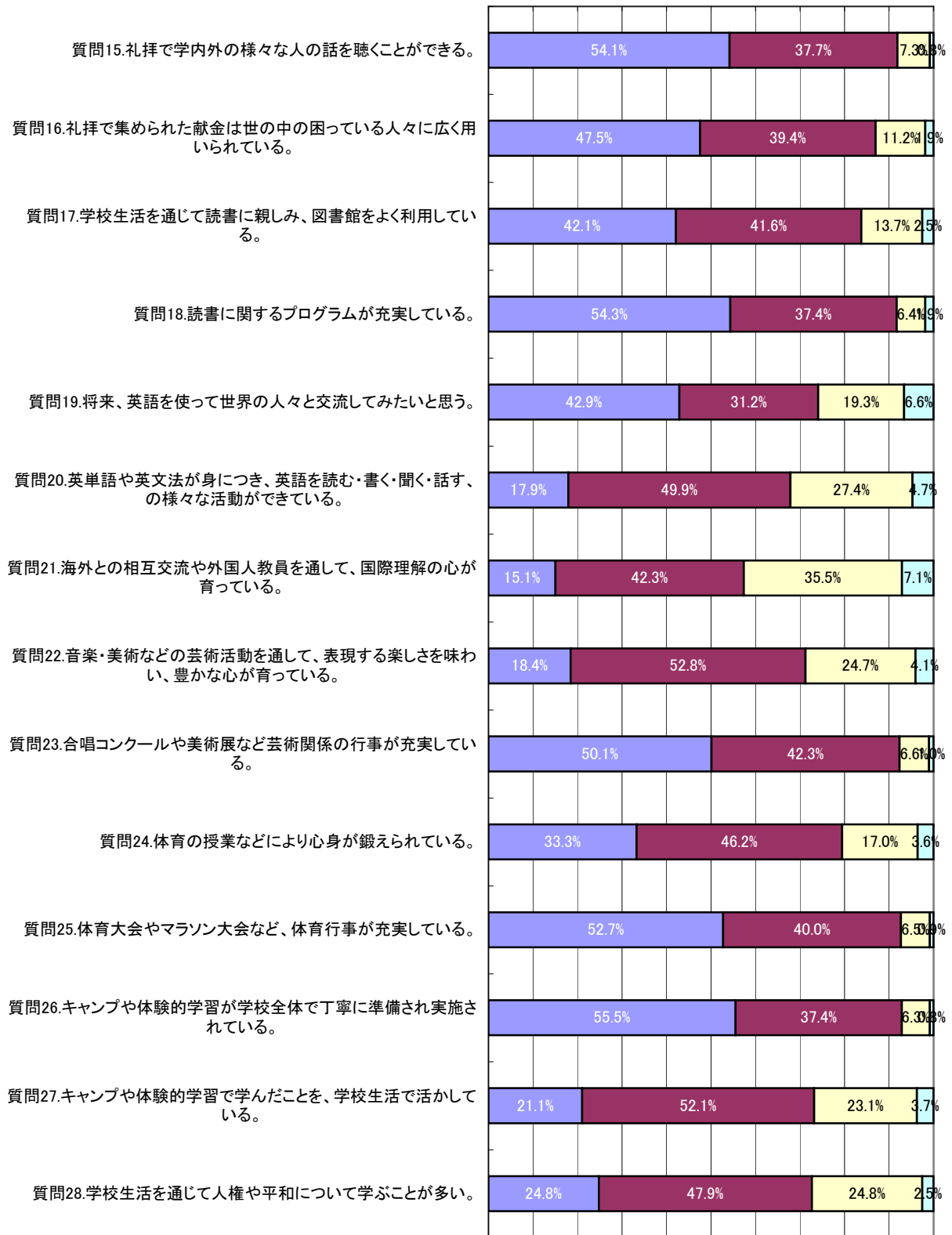
■ 回答番号2: どちらかといえば思う

□ 回答番号3: あまりそう思わない

□ 回答番号4: まったくそう思わない

2012年度 学校評価アンケート集計結果  
(中学部・生徒 質問15～28)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 回答番号1: 強く思う

■ 回答番号2: どちらかといえばそう思う

□ 回答番号3: あまりそう思わない

□ 回答番号4: まったくそう思わない